

県南地区における最近5年間の児童・生徒の 心電図検査概況について

○ 高野 朋紀、村野井 英子、高橋 幸子、
5 及川 秀誠、柴田 眞一、鈴木 美保子

公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】

10 当協会では学校保健事業の一環として、小、
中、高等学校の標準12誘導心電図検査を実施
してきた。今回、県南地区センターで実施し
た心電図検査の概況がまとまったので報告す
る。

15 【対象と方法】

平成21年度から平成25年度の5年間に、県
南地区センターで実施した児童・生徒105,718
名を対象とし、年次推移、要精検の状況、精
検結果についてまとめた。なお精密検査の結
20 果は医療機関からの精検ハガキの返信内容と

学校への問い合わせにより回答があったものを対象とした。

【 結 果 】

平成21年度から5年間の年次推移で見ると、
25 実施人数はそれぞれ 21,540 名、 21,322 名、
21,027 名、 20,889 名、 20,940 名であり、要精
検率は3.1%、3.6%、3.3%、3.6%、3.4%、精検
受診率は84.1%、89.4%、87.7%、88.7%、
88.4%であった。

30 小、中、高校別にみた要精検率はそれぞれ
2.5%、3.5%、4.2%であった。要精検所見で多
かったのは、小学校では不完全右脚ブロック
22.0%、陰性T波14.4%、心室性期外収縮
11.0%の順であり、中学校では不完全右脚ブ
35 ロック16.1%、問診による精検16.0%、心室
性期外収縮13.9%、高校では問診による精検
24.2%、心室性期外収縮13.4%、上室性期外
収縮8.8%であった。

精検受診率はそれぞれ91.8%、86.0%、
40 85.1%であった。精検未受診者の所見では、

小、中、高校全てにおいて問診による精検が最も多く、それぞれ30.8%、33.6%、50.0%であった。

精検結果は、異常なしが52.7%、47.7%、
45 38.2%と最も多く、次いで小学校では不完全
右脚ブロック12.5%、心室性期外収縮7.8%、
中学校では心室性期外収縮11.8%、不完全右
脚ブロック9.9%、高校では心室性期外収縮
12.5%、上室性期外収縮9.2%であった。その
50 他、弁膜症や狭心症、Ⅱ度房室ブロックー
MobitzⅡ型、QT延長症候群があった。

【 考 察 】

実施人数は、小学校では平成23年度の大震
災以降減少傾向にあったが、対象学年を増や
55 した自治体があったため総数に大きな変動は
なかった。要精検率は小、中、高校の順に高
くなつたが、精検受診率は逆に低くなり、精
検未受診者は、自覚症状による精検対象者が
多かつた。問診による精検対象者では異常な
60 しが多数を占めていたが、貧血、起立性調節

障害など心疾患でないものから、弁膜症や狭心症など注意深い経過観察を要するものまで含まれていた。心電図検査における精検受診の重要性、及び受診勧奨の必要性を再認識した。

【まとめ】

児童・生徒の心電図検査の目的は、心疾患の早期発見と心臓性突然死の予防にある。これら目的を達成するためにも、要精検者への精検受診勧奨がいかに重要であるかを再認識し、養護教諭と連携を図りながら、今後も精検受診率の向上に力を入れて行きたい。